

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第7部門第2区分

【発行日】平成24年3月22日(2012.3.22)

【公開番号】特開2009-302508(P2009-302508A)

【公開日】平成21年12月24日(2009.12.24)

【年通号数】公開・登録公報2009-051

【出願番号】特願2009-38453(P2009-38453)

【国際特許分類】

H 01 L 21/683 (2006.01)

H 01 L 21/3065 (2006.01)

C 23 C 16/46 (2006.01)

C 23 C 16/458 (2006.01)

C 23 C 14/34 (2006.01)

C 23 C 14/50 (2006.01)

【F I】

H 01 L 21/68 R

H 01 L 21/302 101 G

C 23 C 16/46

C 23 C 16/458

C 23 C 14/34 J

C 23 C 14/50 A

C 23 C 14/50 E

【手続補正書】

【提出日】平成24年2月8日(2012.2.8)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

基板を保持する基板保持機構と、

前記基板保持機構の下部に配設される加熱機構と、

前記基板保持機構と前記加熱機構との間に接触した状態で介装されて、当該加熱機構で発生した熱を前記基板保持機構へ伝える熱伝導性部材と、を有し、

前記熱伝導性部材は、中央部がくり抜かれた第1シート部を有することを特徴とする基板保持装置。

【請求項2】

前記熱伝導性部材は、前記第1シート部と前記加熱機構との間にプレート状の第2シート部をさらに有することを特徴とする請求項1に記載の基板保持装置。

【請求項3】

前記第1シート部は、リング状又は枠体状であることを特徴とする請求項1に記載の基板保持装置。

【請求項4】

前記第2シート部は、円盤状又は矩形状であることを特徴とする請求項2に記載の基板保持装置。

【請求項5】

前記基板保持機構の外縁部は、弾性を有する複数の係止部材によって前記加熱機構に固

定されることを特徴とする請求項 1 に記載の基板保持装置。

【請求項 6】

前記基板保持機構は、前記基板を静電力により吸着保持することを特徴とする請求項1に記載の基板保持装置。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 0 9

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 0 9】

上記課題を解決し、目的を達成するために、本発明の基板保持装置は、基板を保持する基板保持機構と、前記基板保持機構の下部に配設される加熱機構と、前記基板保持機構と前記加熱機構との間に接触した状態で介装されて、当該加熱機構で発生した熱を前記基板保持機構へ伝える熱伝導性部材と、を有し、前記熱伝導性部材は、中央部がくり抜かれた第1シート部を有する。